横芝の碑（一一九）

独学の士　市原先生の碑

このシリーズその七十二で、乗馬姿の馬頭観音様をご紹介したことがあります。その中で鳥喰下の馬頭観音様の後ろの墓地に、人家の方を向いて建っている一基の碑が目につきます。

天才少年

大正時代、鳥喰下の市原さんという農家に、計衛（かずえ）という少年がおりました。少年は、幼いころから学問が好きで、小学校に入学する前から珠算の術を覚え、二年生ぐらいの本はすべて読めました。

入学してからも成績はいつも一番で、担任の先生が「計衛は少し怠けなさい」と冗談を言うほどでした。学校の先生や家族は「上級学校へ―」と進学を望んでおりましたが、「父母に負担をかけては―」と周囲の勧めを拒んで、卒業とともに家業である農家を手伝いながら、松尾町の私塾に通いました。そして勉強に励み、三年ほどの短期間で教員の資格を取得、大平村立大平小学校の教員として勤務することになりました。

教員となった先生の評判は極めて良く、卒業生はもちろんのこと、先生の人格を慕い、成東や九十九里の方からも勉強や生活の相談に訪れて来る人が後を断ちませんでした。

学校でもそろそろ重い責任を持ち、多忙となってきた先生の身を気遣った家族の人が、来訪者を断ったところ、これを聞いた先生は「教育者が教えを乞う者を拒んだということは恥ずかしい」と大変残念がられたということです。

私塾を開く

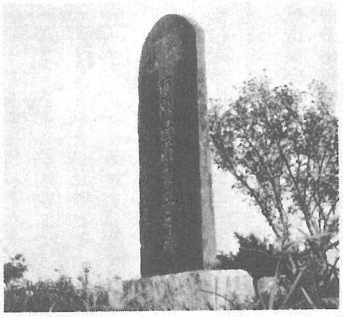
そうしたことがあったためか「自分を訪ねて来る人達は、自分が必要なのである。しかし、学校の教師には自分より勝れた人がいるはずである」と引き止める人々に惜しまれながら小学校を退職されて、自宅の一棟を学舎にして私塾を開き、青少年の育成に専念されました。

かねてから先生の人柄を尊敬していた青少年は続々と先生の門を叩き、その数は百余名にも達しました。

門下生で建立

先生が逝かれたある日、当時の門弟の方々は先生の徳を偲び「その令名を刻した碑を建てて鴻恩に報いたい」ということで、先生が少年のころ学んだ松尾町の私塾に近い、金刀比羅様の敷地内に建立したのがこの碑なのです。昭和二十年ごろ、敷地利用などの関係もありましたので門弟有志の方々によって、先生縁りの鳥喰下の市原家の墓所に移して再建されたのだということです。

写真はその碑で、表には、報徳、市原計衛先生之碑、門弟越川由良沿敬書、そして背面には、題字の揮毫者の越川由良治さんを始め、九十余名の門弟の方々の氏名が刻まれています。



本稿取材にあたり、市原先生のご遺族（松尾町市原書店他）、地元の押尾好文氏、斉藤勲氏等のご指導とご協力があったことを申し上げ、併せてご指導いただいた事柄が紙面の関係から、省略その他の事由で明確さを欠いた点のお詫びを申し上げます。

横芝町文化財審議会委員
小沢春光さん寄稿

告知板

年末年始の業務

ごみ収集

◎年　末
十二月二十八日まで
二十八日（火）は、町内全域を特別収集します。

◎年　始
一月五日から
五日（水）は、町内全域を特別収集します。

し尿処理

◎年　末
十二月二十九日まで

◎年　始
一月五日から

火葬・霊柩

◎年　末
十十二月三十一日まで

◎年　始
一月四日から

住民課窓口

◎年　末
十二月二十八日まで

◎年　始
一月四日から

※出生、死亡など戸籍の届出は休日でも受け付けます。

相談

◎行政相談
とき　毎月才四月曜日
ところ　中央公民館

◎心配ごと相談
とき　毎週火曜日（午後）
ところ　東町児童館

◎人権相談
とき　12月7日
ところ　中央公民館

募集

千葉県警察官
資格　十八歳～二十七歳
受付　十二月一日～二十五日
※ご希望の方は成東警察署か最寄りの駐在所へ

鉄道の旅締切り

十月号でお知らせしました、「伊勢鳥羽への旅」参加者の募集につきましては、定員に達しましたので締め切らせていただきました。

12月5日(日)　町内一日清掃日

（雨天のときは12日）